

申8号・団体交渉を終える

雪による輸送障害の未然防止を迫る

新潟地本は8月6日、申8号・信越線444M東光寺〜帯織間に雪を抱えて停車した事象に対する申し入れの団体交渉を行いました。

信越本線・東光寺〜帯織間で444Mが雪を抱えて運転不能となり、430名のお客さまを乗せたまま15時間以上にわたり立往生する事態を惹き起こした重要性に鑑み、原因を明らかにすることで雪害による輸送障害を未然に防ぐ体制を構築するために申し入れを行っていたものです。

● 444Mの事象が発生した原因について

支社側は当日の状況に、前送運転不能となったと、強い冬の気圧配の影響で日本海側を中心に大雪に見舞われていたものの、多いところでも30〜40cm程の積雪の見通しとの予報であったことから運転を継続していたとしました。

● お客さま救済に約15時間を要した原因について

その上で、444Mが21時01分に土江踏切で踏切故障の取扱いにより停車した際に降雪が酷くなり、また現場では吹雪により

444Mのお客さま救済の視界不良や、積雪により側溝の位置など足元が確認できないため、お客さまが降車した後の安全確保ができないことから、電気・暖房のある車内で待機していただくことが最善との判断をしたと回答しました。

は電車が動き運転間隔も短いことから大丈夫と判断したとしました。

その上で、前列車は大きな遅れもなく運行していた一方で、当該列車は踏切故障の取扱いなどにより前列車との間隔が3時間ほど空いたことで積雪が進んだとしました。

運転中止の決定の判断基準を問うと支社側は、積雪量などの数値ではなく、速度が出ないなどの運転士からの報告等によるとしました。

としてあげました。その上で現在は対策として、お客さま全員のバスの手配が追いつかなくても準備が出来た分からはピストンによる救済も行っているとしていました。



セルモードからロータリモードへの変更や乗員の手配に時間を要したと、簡所によっては徒歩よりも遅い速度での除雪となったとしました。また、家族などが迎えにきたお客さまが降車する際には、安全確保のためにその都度除雪作業を中止し、見附駅では1時間停車であるとしました。

● 社員に対する対策の周知について

会社がマスコミへの記者会見で発表した今事象の対策が社員には説明されていない理由を明らかにするよう求めると支社側は、必要な説明は行なったと回答しました。

その上で、総合現場長会議で周知し、各現場では朝礼や点呼などで説明をしたと報告を受けていると、交渉団が、職場によって

かなりのバラツキがあることを指摘すると、支社側は確認をするとしました。

一方、安全木と危険木の判断が難しく、専門家を頼りながらも判断がつかないとし、支社側は、発生した事象は重く受け止めているが、いま出来ることについてはベストを尽くしているとして、木を切る以外の対策は今のところはないとの考えを示しました。

乗務員や前頭添乗している社員から申告があった危険木などは直ちに伐採するよう求めると支社側は、申告があれば必ず現場を確認し危険かどうかを判断し、危険なものである場合は直ちに切り除くよう申し入れています。

そのうえで、乗務員からの申告は一つの情報源であり、今後ともお願いしたいとしました。

◆ ◆ ◆ 橋梁からの落雪による

東日本ユニオンに結集しよう!



各地で新たな仲間が続々と加入!

交渉団が現時点での評価を求めると支社側は、当時は最善との判断であったが、今考えれば別の手段も考えるべきであったとして、全員同時の救済にこだわったこと、全て自社力でやろうとして自治体や警察などの協力を仰がなかったことを課題

お客さま・乗務員を落雪・倒木から守る対策を!

申7号 団体交渉を終了

新潟地本は8月6日、申7号・今冬期に発生した倒木と落雪に関する緊急申し入れの団体交渉を行いました。

◆ ◆ ◆ 倒木への列車衝突を発生させないよう早急に対策を講じるように求めると支社側は、梅雨前と冬期前の年2回、沿線危険木

◆ ◆ ◆ 橋梁からの落雪による

◆ ◆ ◆ 橋梁からの落雪による

